

若年者に生じた大腿骨滑車部軟骨損傷に対する軟骨片の Pull-out 固定法による治療経験

○五反田 清和 (ごたんだ きよかず)(MD)¹⁾, 副島 崇 (MD)¹⁾, 田渕 幸祐 (MD)¹⁾,
金澤 知之進 (MD)¹⁾, 野口 幸志 (MD)¹⁾, 村上 秀孝 (MD)^{1),2)}, 井上 貴司 (MD)¹⁾,
加藤田 倫宏 (MD)¹⁾, 野山 めぐみ (MD)¹⁾, 志波 直人 (MD)¹⁾

¹⁾ 久留米大学 整形外科

²⁾ 村上外科病院 スポーツ整形外科

【目的】

若年者に生じた大腿骨滑車部軟骨損傷（関節軟骨全層剥離）に対し遊離軟骨片を Pull-out 法にて整復固定し良好な結果を得たので報告する。

【対象と方法】

上記損傷に対し遊離軟骨片を整復固定し得た2症例について、病歴・手術方法・画像所見・再鏡視所見を評価した。

【結果】

症例は2例（いずれも12才男児）、各々バレー・バスケットボールでジャンプ時に膝の轢音とともに疼痛を生じ受傷。近医受診後、いずれも受傷後約2か月で当院紹介受診となった。MRIで大腿骨滑車部外側関節面の全域にわたる軟骨全層欠損を認め、近傍に一塊の遊離軟骨片を認めた。下肢アライメント異常や膝蓋骨不安定性は認めなかった。関節鏡下に遊離軟骨片の状態と母床範囲を確認し、母床の廓清・ドリリングを行った。次に小切開下に軟骨片を廓清し、透視で骨端線確認後、半月縫合糸を5～6本用いて Pull-out 固定およびナイロン糸にて周囲縫合を行った。術後3か月のMRIではいずれの症例も軟骨の整復位は保たれ、軟骨-母床間の関節液介在はみられなかった。うち1例では術後6か月の再鏡視で軟骨片の softening 等は認めず癒合しており、受傷前スポーツレベルに復帰した。

【考察】

若年者の場合、軟骨片の状態が良ければ生着する可能性があり、整復固定を試みてもよいと考えられた。固定法については、Pull-out 法は低侵襲であり骨端線損傷を避ける事ができ有用であった。